

平成30年度における各事業の実施状況について

公共交通の活性化に向けた基本方針における交通施策について

富山市地域公共交通網形成計画の各基本方針における、平成30年度の主な交通施策の取り組みは、次のとおりである。

1. 基本方針① 公共交通軸の活性化によるコンパクトなまちづくりの実現

(1) 鉄軌道活性化計画

1) JR高山本線の増便

平成18年10月～平成23年3月に、JR高山本線活性化社会実験として増便や臨時駅の設置などを実施した。

社会実験終了後は西日本旅客鉄道株式会社と連携し、活性化事業として7便の増便を継続している。

2) 富山地方鉄道不二越・上滝線の増便、新駅設置等

通勤時間帯での増発社会実験を実施し、平成23年9月より帰宅時間帯の増便および終電時刻を延長し、平成25年9月には朝の増便を開始した。

社会実験終了後の平成27年4月から富山地方鉄道株式会社が、更なる利用促進にむけて8便の増便を継続している。

また、平成31年3月に「稲荷町～不二越」駅間に新駅「栄町（県立中央病院口）」を開業するとともに、月岡駅では、パークアンドライド駐車場を6区画拡張（計22区画）し、利便性の向上を図っている。

3) あいの風とやま鉄道線の新駅及び新改札設置

あいの風とやま鉄道株式会社が、周辺開発に併せて、「富山～東富山」駅間新駅、東富山駅及び呉羽駅の新改札設置に向けた取組を進めており、新駅及び東富山駅東口改札は、令和2年度末の供用を目指し、呉羽駅北口改札は令和3年度末の供用を目指している。

(2) 幹線バス活性化計画

1) サイクル&バスライド駐輪場

バス停の利用圏域の拡大を図ることを目的に、バス停周辺にサイクル&バスライド駐輪場を整備し、平成30年度までに10箇所を整備した。

【サイクル&バスライド実施箇所一覧】

年度	バス停名	サイクル&バスライド駐輪場の場所	利用可能台数
28	高 原 町	市営高原町団地まえ(高屋敷823-15)	約10台
28	中 市	山室地区センターよこ(資源物ステーション内)(中市2丁目8-76)	約10台 ※平日のみ
28	分 田	分田バス停そば(市道田島鶴坂線交差点わき)(婦中町羽根新地内)	約10台
28	呉 羽	呉羽会館駐輪場(呉羽町2920)	約6台 ※平日のみ
28	四方神明町・田町	四方地区センター駐輪場(四方142-1)	約5台
29	針 原 新 町	市営針原団地駐車場内(針原中町305)	約5台
29	赤 田	市消防団蜷川分団敷地内(赤田418-3)	約10台
29	藤 代 町	開公民館駐輪場(開254-2)	約6台
29	金 代	金代公民館駐輪場(金代298)	約6台
30	大 泉 駅 前	市営住宅山室団よこ(公文名38-12地先)	約5台

【大泉駅前バス停駐輪場 (H30 整備場所)】



2. 基本方針② 地域特性に応じた多様な生活交通の確保

(1) 生活交通サービス整備方針

1) 公営コミュニティバス等の効率的な運行

大山地域においては、地域からの要望を踏まえ、大庄地区等を循環する大庄循環線の運行を平成30年10月から1年間の社会実験として開始した。大庄循環線の運行に当たっては、地域の理解を得ながら極端に利用の少ない路線の減便を行い、限られた人員、車両での効率的な運行に努めた。

※利用実績を踏まえ、引き続き1年間社会実験を延長

2) 地域自主運行バスの導入支援

市営コミュニティバスから移行して平成31年4月から運行を開始した婦中コミュニティバス、令和元年6月から新たに運行を開始した堀川南コミュニティバスが円滑に運行開始できるよう、ルートやダイヤに対する助言や補助金等の財政的な支援を行った。

3. 基本方針③ 公共交通利用促進

(1) 公共交通の利用促進

1) モビリティ・マネジメントの計画的実施

①多様な場面・手法での情報発信（とやまレールライフ・プロジェクト）

マスメディア、情報誌やインターネット環境を活用するとともに、各種イベント等の機会も捉え、市民に向けて広く公共交通の利用促進について情報を発信した。

- ・ケーブルテレビ富山（6/9～15）、富山シティFM（6/27、7/4、7/20）への出演
- ・Facebookへのイベント情報発信や公共交通利用促進にかかるPR（随時・9回）
- ・大学・専門学校でのモビリティ・マネジメントに関する授業や情報発信（富山大学12/5、富山外国語専門学校4/5、青池学園4/23・27、富山大原学園5/16）

②多様な主体に応じた情報提供（駅・バス停別利用促進啓発事業）

公共交通の利用促進を図るため、沿線人口が多いにも関わらず、公共交通の利用が少ない地区を対象に、戸別訪問やアンケートにより公共交通の利用促進を図った。

また、交通事業者が主体的に利用啓発ツールを活用した戸別訪問による利用啓発活動ができるように、具体的な手法や実施のための着眼点・留意点などをまとめた「戸別訪問による公共交通利用促進の手引き」を作成した。

【実施場所】 大泉駅から約500m圏域と大泉駅周辺のバス停から約300m圏域付近

【訪問世帯】 1,032世帯（面会341世帯、不在691世帯）

【効果分析】 戸別訪問実施前と実施後に実施した乗降調査結果より、1日あたりの利用者が鉄道は27%増加、バスは5%増加した。

【大泉地区（鉄道）】



【大泉地区（バス）】



※日本モビリティ・マネジメント会議

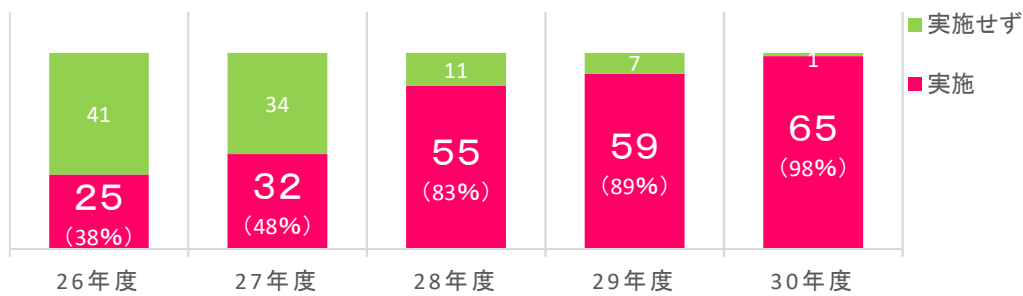
「JCOMM プロジェクト賞」を受賞 (令和元年7月)

乗降調査結果の日利用者数の変化 (左: 大泉地区の鉄道、右: 大泉地区のバス)

③将来世代に対する公共交通の意識啓発（のりもの語り）

小学校3～6年生を対象に、市内の教員が社会科、総合的な学習の時間の単元で使用する学習教材（3～6年生用）、指導テキスト（3年生用）の見直し・印刷を行った。

＜のりもの語り教育の実施学校数の推移＞ ※平成30年度の未実施は、浜黒崎小学校・松風分校のみ



2) ICカードの多様な活用（ICカード学生証の拡大）

公共交通の利用促進及び中心市街地の活性化を目的とし、市内電車環状線沿線等に立地する専門学校への交通ICカード（えこまいか）の機能を付与した学生証の導入について、引き続き支援を行っている。

専門学校学生証へのICカード機能付与

【補助対象校】

No.	学 校 名	対象学年	導入数 (枚)
1	富山リハビリテーション医療福祉大学校	1年生	71
2	富山調理製菓専門学校	1年生	50
3	富山市立富山外国語専門学校	1年生	40

計 161枚



学生証デザイン (富山市立外国語専門学校)

(2) 交通によるおもてなし環境の創出

1) 公共交通従事者による主なおもてなしの向上（マナーアップ）の取り組み

①西日本旅客鉄道株式会社

○定期訓練

【実施期間】 毎月

【実施内容】 接客用語の唱和とお客様からの苦情に対する改善策の共有

○年度初における乗車指導

【実施期間】 平成30年4月10日～4月13日

【実施内容】 不慣れな新社会人・新入生のご利用者を対象とした乗車案内

○マナー講習

【対象学校】 八尾高校（平成30年5月25日）

富山商業高校（平成30年7月12日）

富山西高校（平成30年7月17日）

【実施内容】 高校の新入生を対象とした高山線利用に関するマナー講習

○踏切啓発活動

【実施期間】 春・秋の交通安全運動期間中

【実施内容】 踏切事故の絶滅を目指し、運転免許センターや自動車学校、踏切においてリーフレット等の配布

②あいの風とやま鉄道株式会社

○乗車マナーアップキャンペーン

【実施期間】 平成30年6月12日～6月15日（4日間）

平成30年10月23日～10月26日（4日間）

【実施内容】

- ・ 駅および車内にて乗車マナーUPについての放送の実施
- ・ 乗車マナーUPの駅ポスターの掲示
- ・ 窓口営業時間外の特別改札の一斉実施（無人駅含む）

【啓発内容】

- ・ 「割り込み乗車はおやめください」
- ・ 「駆け込み乗車は危険です」
- ・ 「荷物は網棚か膝の上に置いてください」
- ・ 「多くのお客様にご乗車いただくために、担いだお荷物はおろしてください」
- ・ 「定期券は期限切れや他人使用にご注意ください」
- ・ 「ホームから線路上には降りないでください」
- ・ 「歩きスマホは大変危険ですのでおやめください」

③富山地方鉄道株式会社、富山地鉄北斗バス株式会社

○接客向上キャンペーン（全社員）

【スローガン】 「安全・安心、笑顔であいさつキャンペーン」

【実施期間】 平成30年4月16日（月）～ 4月30日（月） 15日間
平成30年7月1日（日）～ 7月15日（日） 15日間
平成30年10月1日（月）～ 10月15日（月） 15日間
平成31年1月1日（火）～ 1月15日（火） 15日間

【実施内容】

- ・お客様に感謝とおもてなしの心をもって、率先して笑顔であいさつする。
- ・優しい言葉遣い、端正な服装、節度ある態度で対応する。
- ・親切、丁寧、分かりやすく案内する。
- ・車両、施設等の環境美化清掃を心掛ける。
- ・沿線及び県内観光地並びに主要施設の知識を深める。

○社内モニターの実施（全社員）

【年間重点項目】 笑顔で「ありがとうございます」の励行

【実施期間】 平成30年4月1日～平成31年3月31日

【実施内容】 通勤に電車バスを利用する地鉄職員による、乗務員・駅員・乗車券センター所員等へのモニター制度

○バス運転手全員研修会（自動車部）

【対象者】 バス運転手、事務員、運行管理に携わるもの

【実施期間】 平成30年7月9日～12日（4日間）

【実施内容】 接客サービスについて外部講師による研修

④富山ライトレール株式会社

○乗降マナーアップキャンペーン

【実施期間】 平成30年4月5日、6日、9日、10日

【実施場所】 奥田中学校前、蓮町の各電停

【実施内容】 ・利用されるお客さまへの挨拶
・乗降車時のマナーの指導

都市・地域交通戦略推進事業について

1. 路面電車南北接続第2期事業

(1) 事業概要

－目的－

富山駅高架下で富山地方鉄道市内電車と富山ライトレール富山港線を接続し停留場を設置することにより、富山駅の交通結節機能を強化するとともに、富山駅を中心としたLRTネットワークを形成するもの。

－平成30年度事業内容－

- ・軌道施設整備工事

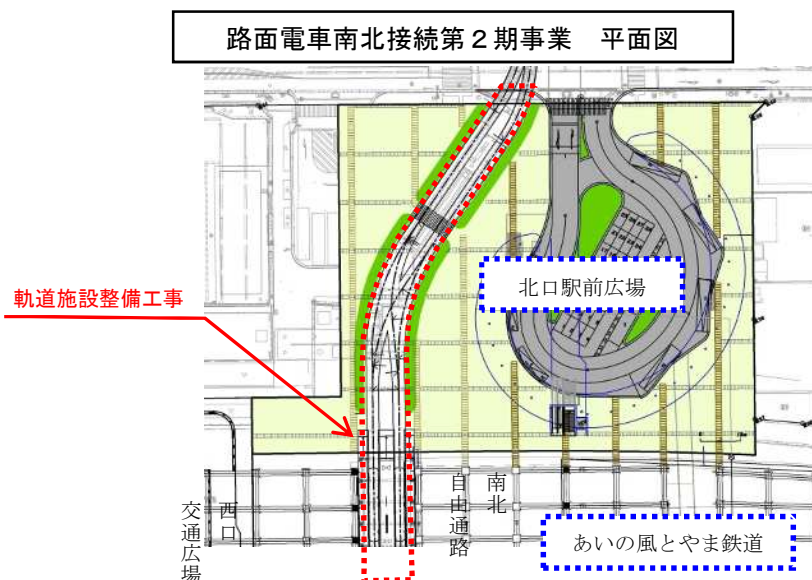
－実行主体－

富山市都市交通協議会

予算額等	全体事業費	国庫補助額
予算額（平成30年度内示額）	654,907千円	327,453千円
平成30年度内完成額	242,776千円	121,388千円
令和元年度繰越額	412,131千円	206,065千円

(2) 実施結果

平成30年度事業については、令和元年度に予算を繰越し継続しており、令和元年度予算にて発注した工事と合わせて、令和2年3月の開業に向けて遅滞なく進める。



－南北接続第2期のスケジュールについて－

南北接続第2期の工事については、昨年8月より、あいの風とやま鉄道の高架下の停留場整備から着手した。あいの風とやま鉄道の高架化が本年3月4日に完成し、その後、仮線等の撤去が進められたことから、6月下旬から北口駅前広場内においても軌道施設工事に着手した。富山駅では複数の工事が輻輳しており工程調整が複雑になるほか、開業前には運転士の習熟運転等の期間も必要となることから、工事日程は非常にタイトなものとなるが、駅を利用する多数の歩行者の安全確保に十分に配慮するとともに、令和2年3月の

南北接続開業の日が滞りなく迎えられるよう、工事関係者全員が目標を一つに着実に工事を進めていく。

工事進捗状況（北口駅前広場部におけるレール搬入 R元年.9.24 時点）

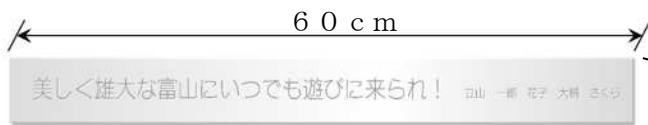


－【参考】富山駅高架下施設に関する寄附金募集（令和元年7月～）－

富山市では、富山駅高架下の停留場整備において、富山市の玄関口に相応しい空間の形成を目指し、富山の工芸ガラスを活用した魅力あふれる空間づくりを進めている。

その一環として、路面電車へのマイレール意識を醸成し、ご利用される方々に未永く親しまれるよう、質の高い高架下停留場の整備に対し、市民等からの寄附金を募集している。

寄附を頂いた方には感謝の意を込めて、メッセージと名前を刻んだ記念プレートを壁面に設置するほか、セントラム及びポートラム車両に装飾する開業記念ラッピングに名前を掲示することとしている。



記念プレートのイメージ



2. 富山港線新停留場整備事業

(1) 事業概要

－目的－

路面電車南北接続事業において富山駅北停留場を在来線高架下へ移設（富山駅停留場に名称変更）することにより、移設後の富山駅停留場～インテック本社前停留場間の距離が長くなること、並びに富山市総合体育館、富岩運河環水公園、富山県美術館などの公共施設へのアクセス向上の観点から、ブルーバール上において新停留場を整備するもの。

－平成30年度事業内容－

- ・仮称ブルーバール停留場設置実現可能性検討

－実行主体－

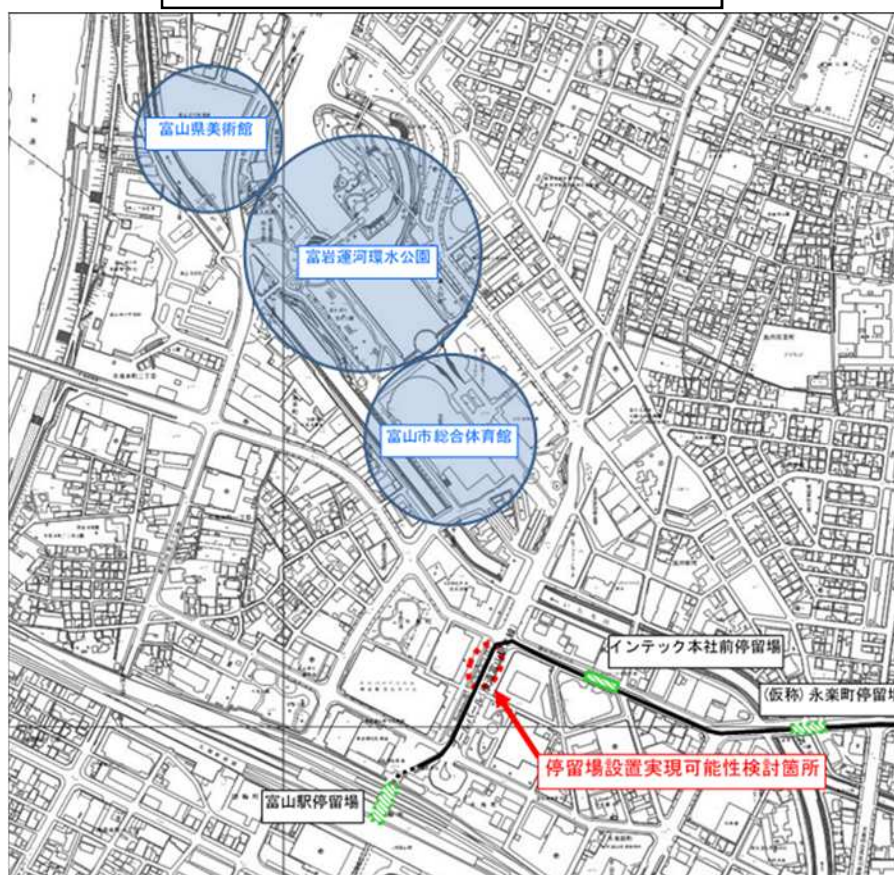
富山市都市交通協議会

予算額等	全体事業費	国庫補助額
予算額（平成30年度内示額）	1,890千円	945千円
平成30年度内完成額	1,890千円	945千円

(2) 実施結果

平成30年度調査の結果、新停留場の整備が可能と判断し、引き続き令和元年度に実施設計を行う。

新停留場実現可能性検討 位置図



(仮称) ブールパール停留場 整備イメージ図



ー (仮称) ブールパール停留場の整備スケジュールについてー

- ・ 令和元年度 新停留場の都市計画決定
新停留場実施設計
新停留場ネーミングライツ募集
- ・ 令和2年度 新停留場整備 (予定)

3. LRTネットワーク形成事業

(1) 事業概要

－目的－

富山市公共交通活性化計画や富山市総合交通戦略等に位置付けられているLRTネットワークのうち、市内電車の富山地鉄上滝線への乗入れ構想に関し、その実現可能性について検討を行うもの。

－平成30年度事業内容－

市内電車上滝線乗入れに係る実現可能性検討調査

－実行主体－

富山市都市交通協議会

予算額等	全体事業費	国庫補助額
予算額（平成30年度内示額）	5,983千円	2,991千円
平成30年度実績額	5,983千円	2,991千円

(2) 実施結果

平成30年度は、平成29年度に引き続き、交通事業者や車両メーカーへのヒアリングを含めて、技術的課題への対応策や概算事業費（初期投資、運行経費）について検討を実施した。

－技術的課題への対応策の検討状況－

交通事業者や車両メーカーへのヒアリングなどを通じ、7項目ある課題のうち車両幅員やホーム高さの違いなど、3項目については解消の見込みが立っている。電圧の相違や積雪時の走行環境の確保など、残る4項目の課題について引き続き検討を行う。

－概算事業費（初期投資、運行経費）の検討状況－

乗入れに必要な施設整備に多額の費用を要することに加え、乗入れにかかる運行経費を乗入れによる需要増で賄うことも困難な見込みであり、乗入れ後の上滝線の収支については大変厳しいものと推測される。

－令和元年以降のスケジュール－

残る技術的課題4項目について引き続き検討を行い、これまでの検討結果をとりまとめるとともに、現在の鉄道利用者の増加による収支改善も含めた事業の採算性について、引き続き交通事業者とともに検討を行う必要がある。